

成果

- 本時に至るまでに、なし、りんごのパワーを取り上げたが、少しずつ違うパワーがあったことで、本時では既習のパワーを活かした発言や、児童が自ら考えたパワーの発言など、意欲的な姿が見られた。
- 本時の中でどこに重きを置くかを明確にしたため、児童のふり返りではほとんどが「さつまいもはつるも実も食べられる食材であることに驚き、体によい甘くておいしい食材だということに気付く」というねらいを達成する内容を書いていた。
- さつまいもの実や皮、つるを実際に見て、食べたことで、それらの様子、味などとともに、パワーを確実に学ぶことができた。ふり返りでも、「実にはピカピカパワー」、「皮にはなおすパワー」など、場所によってパワーが違うことを書いている児童もいた。

課題

- 児童の主体性を引き出すような単元計画ではなかった。児童が「知りたい」、「聞いてみたい」と思えるような単元計画の工夫が必要である。そのために、ゲストティーチャーの活用が重要である。ねらいに迫るために、どんなことを話してほしいのか、出る場はどこかなど綿密な計画、打ち合わせが必要であった。